

## 八重山市町新型インフルエンザ等対策有識者会議

〔平成 26 年 1 月 17 日（金） 14:00～15:45〕

### 質疑応答及び意見

**質問 1**（石垣海上保安部 赤津洋一部長）

資料③「新型インフルエンザ等対策政府行動計画及び沖縄県新型インフルエンザ等対策行動計画の概要について」中、P12「4 予防まん延防止／②予防接種／特定接種」について

「特定接種は、登録業者、新型インフルエンザ等対策の実施に携わる国家公務員及び地方公務員が対象。」とあるが、SARS（サーズ、重症急性呼吸器症候群）対策の際には「優先投与」というのがあった。新型インフルエンザ等対策行動計画において、抗インフルエンザウイルス薬の予防投与に「優先投与」はないのか。

**回答**（沖縄県福祉保健部 健康増進課 結核感染症班）

SARS と異なり、抗インフルエンザウイルス薬は「国民の 45%に相当する量を目標として国が定めた県備蓄目標数を計画的かつ安定的に備蓄する。」（P13）としています。そのため、抗インフルエンザウイルス薬の優先投与はありません。

※抗インフルエンザウイルス薬

- ・オセルタミビルリン酸塩（商品名：タミフル）
- ・ザナミビル水和物（商品名：リレンザ）
- ・ペラミビル水和物（商品名：ラピアクタ）
- ・ラニナミビルオクタン酸エステル水和物（商品名：イナビル）

**質問 2**（県立八重山病院 総合診療科 與那覇博康医師）

観光客への対応について

平成 21 年（2009 年）に新型インフルエンザ（H1N1）が国内で発生したが、その初期段階でホテルや観光客から県立八重山病院へ多くの問合せがあった。八重山圏域は、特に冬場は集団旅行客が増加するが、接触停留者や家族からの問合せ、ホテルから追い出されて行き場のない観光客への対応は市町村レベルで考えるべきではないか。以前、那覇検疫所から県立病院に対応を求められた経緯があるが、県立病院は入院患者の対応で精一杯。観光客や接触停留者（軽症者）への相談窓口や宿泊場所が必要になるので、三市町で協力して取組んでもらいたい。

**回答**（沖縄県福祉保健部 健康増進課 結核感染症班）

「沖縄県新型インフルエンザ等対策行動計画」では、観光客の対応についての記載はない。本件については沖縄県の有識者会議においても課題として取り上げられたので、今後の検討課題としたい。

○石垣海上保安部 赤津洋一部長

離島の急患輸送は海上保安部が担っており、そのほとんどをヘリで行っているが収容人数に限られている。巡視船も使えるが、石西礁湖を航行できるのは極めて小型の巡視船に限られているので、収容人数に制限がある。その点について、今後検討してもらいたい。

→東 朝幸会長（沖縄県八重山保健所 所長）

「〇〇市町村新型インフルエンザ等対策行動計画（案）」P53/31 行

「④重症患者の搬送について、必要に応じて、県を通して自衛隊や海上保安機関へ要請する。」

現実的には限定的な対応になるので、場合によっては民間船を活用することになるかもしれない。

○漢那副市長

急患搬送等、「八重山圏域は一つ」ということで、三市町は互恵関係を考慮した有効な計画策定が求められる。

○県立八重山病院 総合診療科 與那覇博康医師

県立八重山病院には陰圧対応の病室がない。老朽化が激しくて、修理をしてもなかなか利用できない。陰圧室3室のうち、1室のみ利用可能。結核病棟は陰圧室ではないが、感染症患者が発生すると一般患者は立ち入り禁止にして利用することになるかも。現在の病院内には十分に対応できる部屋はない。

※陰圧室：陰圧状態の部屋。室内の空気が外部に流出しないように、気圧を低くしてある部屋。結核や SARS（重症急性呼吸器症候群）など感染力の高い疾病の治療室に使われる。

○上原秀政副会長（八重山地区医師会 会長）

予防接種の対応については沖縄県医師会と地区医師会が連携して取り組んでいる。予防接種の優先順位について近日中に協議されるが、平成21年（2009年）の新型インフルエンザ発生の際には健康福祉センターで集団接種を実施した。

○那覇検疫所 石垣出張所 新城 正所長

台湾からのクルーズ船の対応としては、船内で鳥インフルエンザ等の感染症患者が発生すれば石垣港には上陸させない水際対策を取ります。検疫集約港として横浜港、神戸港、門司港、博多港がある。航空機の検疫のための集約空港は成田、関西、中部、福岡、羽田で、同様の水際対策を取ります。新型インフルエンザ等の患者が発生すれば、水際対策を強化します。

○八重山地区養護教諭研究会 又吉尚子会長

サーベイランス（発生動向調査）について、季節性インフルエンザ等の感染症患者が学校で発生すれば、教育委員会から県に報告することになっています。

○県立八重山病院 與那覇博康医師

サーベイランス（発生動向調査）について、小・中学校では対応がなされているでしょうが、県立高校についてはどうなっているのか。寮生や下宿生については、十分に把握されていないのではないかと。これまでも高校生の中で感染症拡大したケースは多く、今後もその可能性は高い。

（県立高校でのサーベイランスシステムはないのではないかと。今後の検討課題。場合によっては県にそのシステムをつくっていただくことになるかも。）

外国船対応については、医療通訳は必要。英語はある程度、医療関係者は話せるが、中国語（広東語、北京語等）については医療通訳者が医療現場では強く求められている。特に感染症においては、感染経路等の情報を聞き出すのには苦勞するので、その対策を考える必要がある。

県立八重山病院で予防接種や予約・受付等の問い合わせが増加すると、その対応に追われる。石垣島は八重山地区医師会が対応できるでしょうが、周辺離島では診療所に集中することになり、通常業務がこなせなくなる。基礎疾患のある患者等への優先順位。以前は西表西部診療所で対応したが、竹富町は9つの有人等があるのに、役場が石垣島にある。個別の対応が実質的にできるのか疑問。竹富町は特異な状況にあるので、その対応も考える必要がある。

診療所がない離島では、予防接種も受けられない。保健師が独自に予防接種の注射をするというのは法律上難しいのではないかと。

○東 朝幸会長（沖縄県八重山保健所 所長）

次回からは「〇〇市町村インフルエンザ等対策行動計画（案）」をもとに、項目ごとにそれぞれの専門的な立場でご意見をいただきたい。

例

※P32/37行（3 情報提供・共有／(3)コールセンター等（相談窓口）の設置

一観光客や接触停留者等が直接、県立病院に電話することがないよう、市町村で相談窓口を開設して対応することが求められる。

※P45／19行～24行（4 予防・まん延防止／(4)緊急事態宣言がされている場合の措置

→県と連携して、石垣市、竹富町、与那国町はどのように対応するかを明記する。

※P55／19行（6 市町村民生活・市町村民経済の安定の確保／⑦埋葬・火葬の特例等）

→※市町村営の火葬場がある場合は、「〇〇火葬場の火葬炉を可能な限り稼働させる。」

石垣市内の火葬場は竹富町及び与那国町の住民等も使用するので、公平に使用できる取り決めが必要になる。